

パナソニック・イズム

ism

モノづくりスピリッツ
発見マガジン

アーカイブ
Archives

SHARE

▶ コンテンツ一覧 ▶ このサイトについて

ism トップ > そこに待っている人がいるから。 ～福祉機器～

※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

そこに待っている 人がいるから。

～福祉機器～



「ん？この技術、使えるんじゃ…？」

営業や研究に勤しむ中、ふとした
きっかけで福祉機器の開発へと
乗り出した松下マンたち。

「本当に必要としてくれる人がいる。
そんな彼らの笑顔が何より嬉しい！」
尽きない情熱を胸に休日返上で
奔走する彼らを、ホームヘルパー兼
主婦ライターが追った。

福祉機器との出会い

ライター：宇都宮 雅子



「モノの識別」をサポートしたい。

音声ICタグレコーダ
ものしりトーク



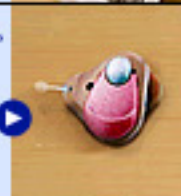
「コミュニケーション」をサポートしたい。

携帯用会話補助装置
レッツ・チャット



「聞く」をサポートしたい。

オーダーメイド
デジタル補聴器



そのほかの福祉機器

国際福祉機器展
松下グループブースにて



スタッフ一覧へ / 「福祉機器との出会い」へ

このコンテンツ、あなたの評価は？

おもしろい ふつう おもしろくない

ism トップ

コンテンツ一覧 | このサイトについて

※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

そこに待っている
人がいるから。～福祉機器～

福祉機器との出会い

みなさんは「福祉機器」と聞いて、なにを思い浮かべますか？ 車いす？ それとも手すりのついたトイレ？

「ピンとこない」「なんだかよくわからない」方もいるでしょう。身近に福祉機器を必要とする人がいない限り「なんだかよくわからないもの」。私にとっても福祉機器はそういう存在でした。ホームヘルパーとして介護の現場に立つまでは。

私が「なにか社会の役に立つことがしたい」という思いを抱き、ホームヘルパー2級の資格を取得したのは1994年。以来ライター仕事の傍ら、週末にご高齢者の家庭を訪ねては家事や介護をお手伝いしています。

そして介護関連の記事を書いた経験から、今回、こちらのイズムサイトにお招きいただき、松下の福祉機器の開発現場を訪ね、お話を伺うことになりました。中には初めて知る機器もあり、福祉・介護という分野の奥深さを改めて実感させられました。

今回、松下で出会った開発者はみな、福祉・介護の分野に深く関わり、一人でも多くの人に自らが手がけた福祉機器を届けようと努力されている方ばかり。それぞれの製品は異なっても、その現場には共通して「そこに、待っている人がいるから」というシンプルで強いモチベーションが感じ取れました。

待っている障害者やご高齢者のために、休日返上で製品を開発し、そこに至るまでの苦労はお客様の喜びの声、そして笑顔によって報われる。そんな“ものづくり”もあることを、と一緒に体験していただければ幸いです。

「モノの識別」をサポートしたい。
音声にタグレコーダ
ものしりトークのストーリーへ



「コミュニケーション」をサポートしたい。
言語障害者、上肢障害者向け携帯用会話補助装置
レッツ・チャットのストーリーへ



「聞く」をサポートしたい。
オーダーメイド
デジタル補聴器のストーリーへ



そのほかの福祉機器
国際福祉機器展
松下グループブースにて



トップページへ戻る ▶



宇都宮 雅子（うつのみや まさこ）
ホームヘルパー2級資格を持つ。ここ数年、平日はライター、週末はヘルパーとして活動中。



▲ このページのトップへ戻る

トップへ | 次へ

ISM トップ > そこに待っている人がいるから。 ~福祉機器~ > そのほかの福祉機器

※過去に掲載された記事になります。内容は公開時のものであり、最新の情報とは異なる場合がございます。

そこに待っている人がいるから。~福祉機器~



松下の本気、感じます



お台場ベイエリアに位置する東京ビッグサイト。今日10月13日は、ここで3日間に渡って開催される第31回国際福祉機器展の初日。本場で取材させていただいた3点以外にも松下が総数80点の製品を出展すると聞き、さっそく足を運びました。国内外645社の世界の最新福祉機器を一同に集めた中でも、松下グループのブースは往來運用品から車いすや介護ベッド、さらには洗濯機のような家電製品まで幅広いバリエーションです。この中から障害者や高齢者がなじみやすく使いやすい福祉機器を、ホームヘルパーの視点から探してみました。



用途や目的に応じて使いこなしたい車いす
車いすといえば、足が不自由な方のみならず、健常者もいつ何時お世話になることがあるかわからない一番身近な福祉機器ではないでしょうか。骨折した時や病気の時自らが、はたまた家族や友人が乗る車いすの移動を手伝うこともあるかもしれない。松下は室外用、室内用、そして乗る人や介助する人に選んだ調整が可能なものまで、私の想像以上にライオンナップを揃えていました。でも、私のこれまでのヘルパー経験では日本の、特に都金の住宅事情で、室内で車いすを使えるケースはあまり多くないという先入観があったのですが・・・

室内用と室外用2台の車いすが同時にレンタルできるということをご存知でしょうか。その事実を知り、室内用車いすの必要性を見直すべきではないか、と室内用車いす「リラクタン」を見て感じました。車いすに乗り慣れない私でも、小回りの効く操作性の良さ、コンパクトさ。さらに驚いたのは、介助者がテイルテイング（座面を斜めに傾けること）を簡単に調整できること。これはタイヤの高さや配置、斜め姿勢でも車いすをしっとり支える骨組みの工夫などによって、テイルテイング姿勢を安定してキープできるため。私も体験してみましたが、車いすそのものがガッチリと安定し、安心して体を預けることができました。



室内用車いす「リラクタン」

一方、室外用車いすは、歩いているとわからない地面の凹凸の衝撃をいかにやわらげるかが課題。おでかけ車いす「ライクル」で試しに段差を超えてみたところ、縦にガタンとくる振動はなく、まるで空気のペダルを踏むようにふわっと段差を超えることを実感できました。これは車輪にかかる衝撃を吸収するフレーム構造とタイヤの工夫によるものだそうです。乗る人や介助する人に選んだ設定や調整が可能な、モジュラー車いす「フレキシィ」は座面・背面のフィット感が印象的。例えば背中が丸まったご高齢者の場合、背中のカーブに沿うように背面の張りを調整してあげられます。私がヘルパー先で扱う車いすにはクッションのないタイプやシートの張りを調整できないタイプが多く、座布団や毛布で乗り心地を自分で調整せざるをえません。これからは、一人ひとりの体にフィットし、利用者が快適に座れるモジュラータイプがもっと普及することを願っています。



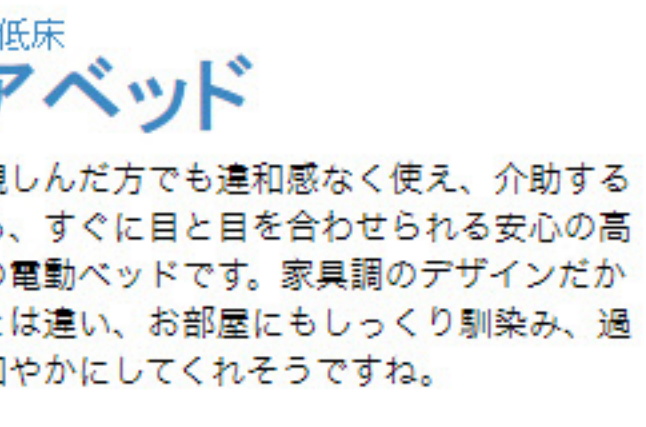
おでかけ用車いす「ライクル」



モジュラー用車いす「フレキシィ」



介助者にうれしいハンドル高さの調節。



片手でも簡単にたたためました。

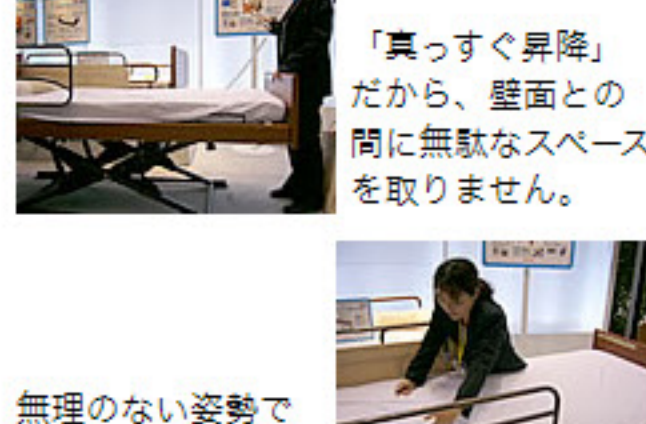


お布団感覚で眠れる低床電動ケアベッド
長年お布団に慣れ親しんだ方でも違和感なく使え、介助する方が寝て休む場合も、すぐに目を含ませられる安心の高さ（低さ）が売りの電動ベッドです。家具調のデザインだから、病院のベッドとは違い、お部屋にもじっくり馴染み、過ごす人の気持ちを和やかにしてくれそうですね。

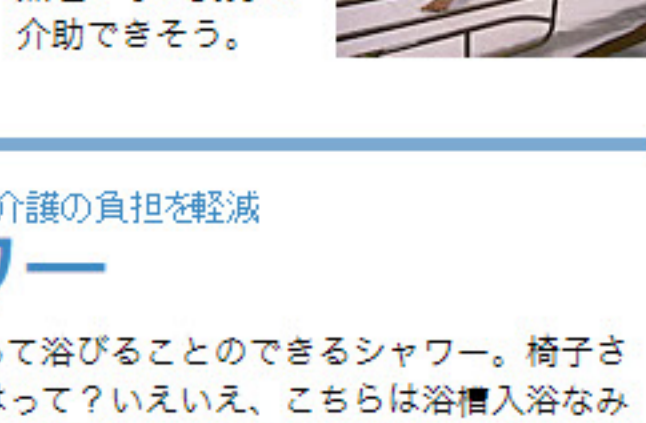
上下昇降や背上げ機能など、電動ベッドの便利さはヘルパー先でも実感しています。私自身も持病の腰痛が悪化した時は、昇降機能のあるベッドだと立ち上がりがとてもラク。健常者にもやさしい商品だと改めて感じさせられます。「ソイーネ」は最も低く設定した場合、床からの高さが23cm。98%以上のご高齢者がかかとをつけて座れる高さだそうです。最も高く設定した場合は60cm。私の腰のあたりまで床面が上がるので、介助者にとって体位交換やシート交換がやりやすい位置といえそうです。また、垂直に昇降するため、ベッドと壁の間には余分な隙間を空ける必要がなく、従来のスイング昇降タイプでは置けなかった寝室にも設置できるというのは嬉しい話ですね。日本の住宅事情を考えた時、狭い寝室にも置ける省スペース性はとても大きな要素だと思いました。



電動ケアベッド「ソイーネ」。車いすへの移乗も楽に行えます。



「真っすぐ昇降」だから、壁面との間に無駄なスペースを取りません。

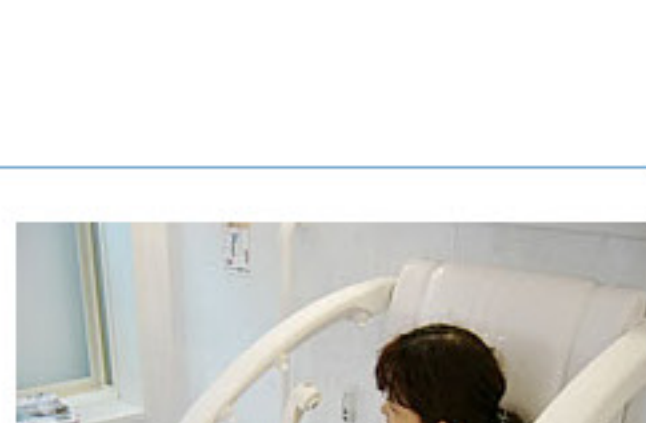


無理のない姿勢で介助できそう。



入浴時の体の負担・介護の負担を軽減座シャワー
その名の通り、座って浴びることのできるシャワー。椅子さえあれば済むのではって？いえいえ、こちらは浴槽入浴なみの温熱効果の得られる全く新しい入浴法を提案する製品だとか。簡単に素早く入浴でき、身体への負担も軽くすむというは嬉しいニュース。ご高齢者に限らず、心臓や血圧に不安のある方、妊婦の方、そして介助なさる方々にとっても、「身も心も温まる」商品ではないでしょうか。

入浴介助はヘルパーの作業の中で最も重労働ではないかと思えます。また、介助される側にとっても入浴は身体の負担が大きい体力を消耗するもの。浴槽の段差を超える必要なく、浴槽に遠くから時と同じ快適感が得られるように、松下とテクノエイド協会が共同開発したのが「座シャワー」です。座位のままシャワーを浴びること、約6分間の浴槽入浴と同じ温熱効果が、リモコンで操作できるので、介助者もお湯をかぶる心配もありません。気になる部分はシャワーヘッドで重点的に入浴できます。訪問入浴サービスやケアセンター以外に、自宅でも入浴できるこんな方法もあるという選択がひとつ広がりました。

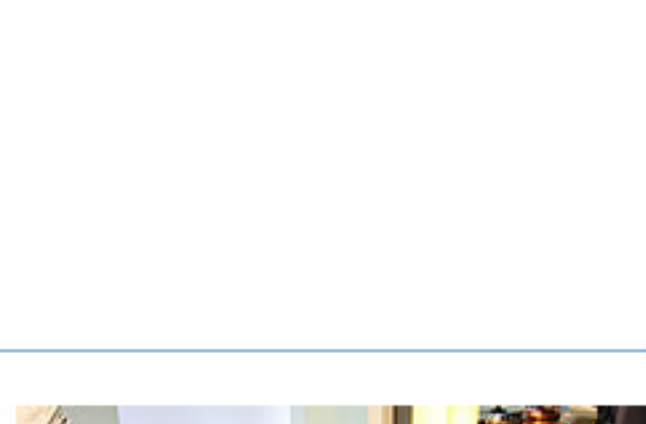


座ったままでシャワーヘッドも使えます。



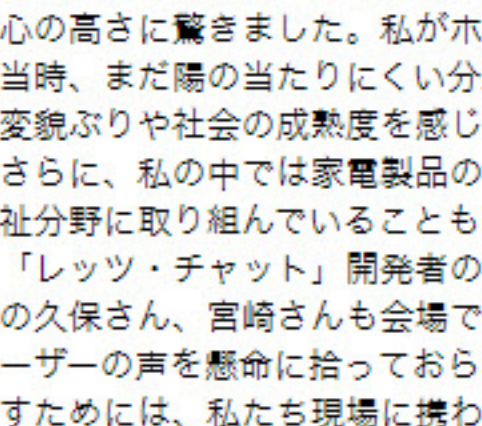
「できることは自分でしたい」気持ちに応えるななめドラム洗濯乾燥機
誰に、驚異的な節水も実現しました。地球環境にもやさしく、そして限られた生活費をやりくりする生活者にはとてもうれしい家事家電です。当然、乾燥までしてくれるから、干す必要もありません。「ななめ」が生む使いやすいから、車いす、体が少し不自由な方に、「自分でやってみようかな」という、心の余裕とやる気を生んでくれるかもしれません。

車いすの方が洗濯機を使われる場合、従来の上から洗濯物を出し入れるタイプでは中が見えず、手探りで洗濯物を探さざるを得ませんでした。ところが、このななめドラムタイプなら、まず洗濯物がよく見え、車いすに座った状態からラクに出し入れができます。また、従来の車いすでは取り出しの際に、靴下などの小さい洗濯物を洗濯機の横や裏に落とす、そのまま気がつかずにいることもありましたが、これなら前に入れられるのでその心配もありません。乾燥機能も6KGまであるので、洗濯作業は完全自立できるのではないのでしょうか。

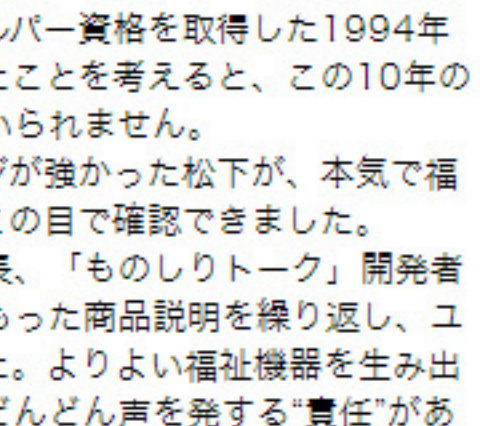


なるほど、底まで手が届く。

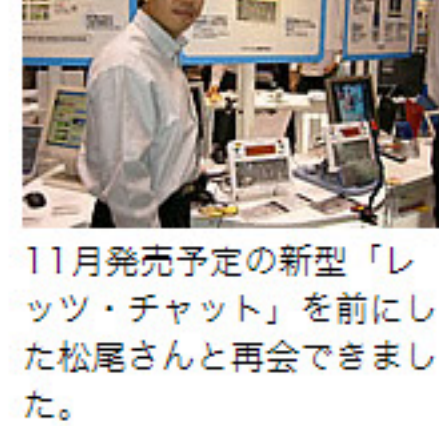
あとがき～盛況な松下ブースを後にして～
今回の取材でまず驚いたのは会場を訪れる人の多さ。平日にも関わらず若い世代や働き盛りの世代が多量に福祉・介護への一般の方々の関心の高さに驚きました。私がホームヘルパー資格を取得した1994年当時、また隣の当たりにくい分野だったことを考えると、この10年の変貌ぶりが社会の成熟度を感じずにはいられません。さらに、私の中では家電製品のイメージが強かった松下が、本気で福祉分野に取り組んでいることも改めてこの目で確認できました。「レックス・チャット」開発者の松尾社長、「ものしりトーク」開発者の久保さん、宮崎さんも会場での熱心な商品説明を繰り返し、ユーザーの声を懸命に拾っておられました。よりよい福祉機器を生み出すためには、私たち現場に携わる者がとどろい声を発する「責任」があるのではないかと強く感じました。そして、その声に耳を傾ける「松下の本気」に、期待したいと思います。（おわり）



こちらには「ものしりトーク」のデモ真っ最中の久保さんが。



業殺を手に、「ものしりトーク」熱井中の宮崎さん。



11月発売予定の新型「レックス・チャット」の前型「PLUS（アヤラス）」も、フィッシング用ソフトウェアの画面と共に展示されていました。

ご紹介した商品について、さらに詳しくはこちらへどうぞ。

- 室内用車いす リラクタン
- おでかけ用車いす ライクル
- モジュラー車いす フレキシィ
- 電動ケアベッド ソイーネ
- 座シャワー
- ななめドラム洗濯乾燥機



オーダーメイドデジタル補聴器「彩（AYA）PLUS（アヤラス）」も、フィッシング用ソフトウェアの画面と共に展示されていました。



この「そのほかの福祉機器」のページトップへ戻る「福祉機器との出会い」のページへ進む「ものしりトーク」のページへ進む「レックス・チャット」のページへ進む「オーダーメイドデジタル補聴器」のページへ進むトップページへ戻る